

令和5年度 学力向上指導改善プラン

つつじが丘小学校長 村岡 智行

学校教育目標		学ぶことを楽しみ、人とつながって生きるつつじっ子の育成	
推進主体		研究推進担当・生徒指導担当・新学習システム推進教員を中心に学力向上	
学力に関する前年度の状況・経年の課題等			
学力の状況	全国学力・学習状況調査結果(国語、算数・数学に関する質問紙調査の結果も含む)	国語	<p>○学校司書や担任との連携で低学年を中心に、年間を通して読書活動への取り組みが深まった。</p> <p>○朝の読書タイムや図書ボランティアによる読み聞かせなどの継続した取り組みによって、児童の読書への関心が高まりつつある。教室では隙間時間に読書をしたり、休み時間に図書室を利用したりしている児童もみられる。</p> <p>○読書通帳で100冊達成する児童は昨年度より増えている。</p> <p>◆全校生への生活アンケートでは、「学校の授業時間以外でどれぐらい読書をしていますか?」という問いに対して、「30分未満」が55%、「30分以上1時間以内」が7%と半数以上の児童に短時間ではあるが読書の習慣が身につけていると思われる一方で、「しない」には30%の児童が答えている。本校が進める読書時間の目安を達成しているとは言いがたい。課題がある。</p>
		算数・数学	<p>○国語など説明文での学習で、文章の組み立てがわかり、紹介カードや新聞などに書きたい情報をまとめたり、図や表を効果的に用いて表現したりできるようになってきている。</p> <p>○高学年では、学習したことをタブレットのアプリを用いてまとめる機会を意図的に仕組むことにより、自分の考えを言葉や文章でわかりやすく表現しようとして、自分の考えを伝えるために効果的な資料を取捨選択したりするなど、相手意識を持ちながら取り組もうとする姿がみられるようになった。</p> <p>◆あのねようや日記、視写等の日々の取り組みにより、少しずつ書くことに対する抵抗はなくなりつつあるが、低学年では平仮名やカタカナの使い方が不十分だったり、中・高学年では、段落相互の関係や題名と本文のつながりなどを意識しながら読み取り、自分の言葉で要約したりする力が弱い。</p>
		ICT機器を効果的に活用した取組状況	<p>○算数科を中心に効果的なICTの活用方法を検証している。どの教員もタブレットなどを使うようとする意識が高まっているのが窺える。また、ICTの活用は算数科にとどまらず、どの教科でも活用しようとしている。</p> <p>◆タブレットを用いて、児童一人ひとりの実態に合わせた学習をすすめることで、基礎基本の定着を図る。</p> <p>◆タブレットなどのICT機器を用いて、児童一人ひとりの実態に合わせた学習をすすめる、履歴を残すことで、基礎基本の定着を図っていく。</p>
		定期テスト、単元テストなどによる状況(各教科)	<p>◆漢字の読みかえ、使い方に課題があり、音に当てはめた文字を書く傾向がある。(経年)</p> <p>◆各教科の単元テストでも、記述式で回答する設問において、学年が上がるにつれて無回答の児童が増える。</p>
	授業等からうかがえる状況(各教科)	<p>○高学年では、学習したことをタブレットのアプリを用いてまとめる機会を意図的に仕組むことにより、自分の考えを言葉や文章でわかりやすく表現しようとする意識が高まっている。</p> <p>◆学習内容を整理して考えをまとめる機会が弱い児童がいるため、学年と学年の学習内容のつながりや単元同士の関連性を意識して授業を行うこと、児童に意識をもたせながら学習を進める。</p> <p>◆文字を丁寧に書くことや定規の使い方、机上の学習用具の置き方、鉛筆の持ち方、学習姿勢など、学習規律・授業規律の定着を図っていく。</p> <p>◆きつや通帳をはじめ、自分の思いを伝える力や主語と述語をはっきりさせて正しく伝える力をつけることが必要である。</p> <p>◆自分で課題を立てて情報を集め、それを整理して、調べたことを発表するという学習経験が不足している。</p>	
	慣学・力向上生活学習に係る等の学習状況	<p>◆「学校の学習時間以外、一日どれぐらいの時間、勉強をしますか」の項目では、平日では65%、土日には71%が「1時間未満」の項目に「あてはまる」と答えており、自主的に計画を立てて学習する習慣がついていない児童が多いと考える。</p> <p>◆「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」という項目についても、「あてはまる」は半数近くと割合が低く、全国平均を下回っている。</p> <p>○「学校で他の友達と意見交換したり、調べたりするためにICT機器を使用している」の項目では、68%が肯定的に答えており、全国平均を30ポイント近く上回っている。</p>	
	校内研究状況・研修	<p>○校内研究においては「タイが生まれる楽しい授業」をテーマに、主体的・対話的な学びを大切に授業づくりを推進している。</p> <p>◆全国学力・学習状況調査結果の状況をふまえて、基礎基本の徹底・活用能力の育成・表現力の向上・問題解決に対する意欲の向上などについて更なる研究が必要である。</p> <p>◆タブレットPCなどのICT機器の効果的な活用方法について研究を進める。</p> <p>○研究推進委員会の中に学力向上部・環境部を設置し、授業、学習環境等、子どもたちの学力向上への方策について研究を深めると共に、外部講師を招き、授業実践についての研修を進めている。</p>	
家庭・携校種間連	<p>○3年生での田植え、2年生での町探検、1年生での普遊びなど貴重な体験をさせて頂いており、地域が非常に協力的である。</p> <p>○新1年生の下校の見守りや配膳ボランティア、ミンボランティア、図書ボランティアなど、地域人材を活用している。</p> <p>○生活指導・人権学習・英語学習などの観点から、中学校区で校種を超えて、授業を互いに参観し合い交流することを通して、児童の理解を深めている。</p>		
4月		成果となる目標	具体的な行動目標
学力向上に向けての重点的な目標		(指標となる数値等)	(成果目標達成のための具体的な手立て等)
○読書活動の充実		<p>○読書をする時間を昨年より増やす。(1・2年15分以上、3年以上30分以上の児童が50%)</p> <p>○読書通帳で100冊達成する児童を昨年度より増やす。</p>	<p>・朝の読書タイムを活用して読書習慣を確立させ、本に親しむ機会を増やす。</p> <p>・学校司書を中心に、本の選び方指導や本の読み聞かせ、図書館便りの発行などを通して読書の楽しさを伝える。</p> <p>・「読書通帳」を活用して読書の質・量をともに増やし、数多く読書をした児童を表彰することによって、読書を一層奨励する。</p> <p>・図書室や学年フロアなど、本に親しめる環境を整備し、読書の楽しさを一層味わえるようにする</p>
○文章を書く力の伸長		<p>○学年の発達段階に応じた書く力の向上を図る。</p> <p>○算数の思考過程を記述する問題の平均正答率で全国平均をめざす。</p>	<p>・低学年から日記や視写等の活動を通して、語彙力、表現力を高め、書くことに対する抵抗感をなくす。</p> <p>・分からない言葉は、辞書ですぐに調べさせる機会を多くとり、辞書を使う習慣をつける。</p> <p>・設定された字数や目的に合わせて、情報を取捨選択し、要約する学習を重ねる。</p> <p>・書いた文章を推敲する時間を設定し、自分の文章を読み直すことを習慣化させる。</p> <p>・図表やグラフなどを用いた文章や新聞記事を活用し、それらを用いる意図や効果について理解させるとともに、説明的な文章を書くことに効果的に活用できるように指導する。</p>
○算数科を中心に「タイが生まれる楽しい授業」のテーマに沿って思考力を高める授業改善		<p>○校内アンケートで「算数が好き」という児童85%以上を目指す。</p>	<p>・「タイが生まれる楽しい授業」をテーマに、子どもが主体的に学習に取り組む授業の仕組みを研究する。</p> <p>・教育環境整備やつつじが丘小学校スタイルのノート作りを推進すると共に、相互評価を充実させる。</p> <p>・「つかむ」「考える」「深める」「ふり返る」の授業の流れの可視化を図る。</p> <p>・課題提示の仕方を工夫し、児童からめあてを引き出すことで主体的な問題解決につなげる。</p> <p>・自分の考えを工夫してまとめたノートを「いいねノート」として掲示する。ノートコンテストを行い、相互評価の場を持つことを通して、学習意欲を高める。</p> <p>・タブレットPCなどのICT機器の効果的な活用方法について研究を進める。</p> <p>・マイルインドを活用した協働的な学習の充実、情報の整理などを学習に位置付け、思考の可視化、操作化を促す。</p>
○学習規律・授業規律の定着と学習環境の整備		<p>○聞き方名人、話し方名人を各クラスに掲示して、どの学年でも、聴き合い学び合うクラス作りを行う。</p>	<p>・正しい学習姿勢を目指し、キッピー体操を週2回行う。</p> <p>・学習の準備について指導・点検を行い、定着させる。</p> <p>・「目を見て話を聴く」、「反応しながら聴く」、「体を止めて聴く」、「手遊びをしない」など、聴く態度の徹底を図る。特に低学年では、望ましい聴き方ができている児童を褒めることで、クラス全体の聴く態度につなげていく。</p> <p>・中学校区での合同研修を実施し情報や取組等について共通理解を図る。</p> <p>・がんばり学びタイム指導員による個別支援を行い、学習習慣の定着につなぐ。</p>
○児童の家庭等での学習習慣の確立		<p>○保護者アンケートで「進んで家庭学習をしている」の肯定的な評価を80%以上にする。</p>	<p>・「家庭学習の手引き」をもとに、家庭学習の方法を指導し、高学年においては自主学習を家庭学習に取り入れる。</p> <p>・生活アンケートの結果から、ゲーム等に費やす時間や一日の過ごし方について、家庭でのルールをしっかりと決めることの大切さを知らせる。</p> <p>○今年度は、情報セキュリティ教室を開きSNSなどの正しい使い方について学ぶ機会をもったことで昨年度よりも児童の情報モラルを高めることができた。</p> <p>◆家庭でメディアやネットワークゲームを利用の仕方について考える機会をもつ大切さについて啓発をする。</p>
○漢字と計算を中心とした基礎・基本のさらなる向上		<p>○漢字のまとめのテストを繰り返し行って、正答率90%以上を目指す。</p> <p>○計算検定において90%以上を目指す。</p>	<p>・朝学習における復習練習により、習得内容の定着を図る。</p> <p>・宿題による復習・繰り返し練習によって学力の向上を目指す。</p> <p>・放課後学習の時間を確保することで基礎・基本の1層の定着を図る。</p> <p>・担任・教科担任・兵庫型学習システム教員及びがんばり学びタイム指導員との連携を密にし、個に応じた指導の充実をさらに図っていく。</p> <p>・「マイルインド」のドリルパークなどを使って、国語や算数の基礎基本の定着を図る。</p>
2～3月		年度末評価	
(今年度の成果と来年度に向けた課題等)		評価	
○学校司書や担任との連携で年間を通して読書活動への取り組みが深まった。また、図書室の時間におススメの本紹介をする場を設定することが子どもたちの表現力を高めることにもつながっている。 <p>○朝の読書タイムや図書ボランティアによる読み聞かせなどの継続した取り組みによって、児童の読書することへの意欲が高まってきている。各教室では、わずかな隙間時間や休み時間に読書をしたり、休み時間に図書室を利用する児童の姿が見られる。</p> <p>読書通帳で100冊達成した児童は90名で、昨年度と比べて20名以上増えた。</p> <p>◆児童の関心のある本や国語など各教科と関連付く本を揃えたり、身近に本に親しめる環境を整備したりする。</p>		A	
○国語など説明文の学習で、文章構成を理解し、物語紹介カードや新聞などに書きたい情報をまとめたり、図や表を用いて表現する意識が育ってきている。 <p>○高学年では、学習したことをタブレットのアプリを用いてまとめる機会を学習中に意図的に仕組むことにより、自分の考えを文章でわかりやすく表現しようとして、自分の考えを伝えるために効果的な資料を取捨選択したりするなど、相手意識をもちながら取り組もうとする姿が見られるようになってきている。</p> <p>◆低学年では、ひらがなやカタカナの使い方が不十分であったり、中高学年では、段落相互の関係や題名と本文のつながりなどを意識しながら読み取り、自分の言葉で要約したりする力に課題が見られる。</p> <p>◆課題や自分の考えに合わせて、読み手により伝わるような言葉を精選したり、適切な言葉で表現したりすることに課題がある。キーワードや時数を禁多端作文などの取り組み、タブレットを「相手の表現力の育成などを進めていく。</p>		B	
○11月に算数科研究発表会を開催し、授業公開、研究発表について市内外に伝えることができた。 <p>○前時の学習内容や既習事項を活用しながら意見を伝える場面が見られるようになってきている。また、考えの根拠をたずねた時「だったら～」や「じゃあ～」などの言葉を使って発展的に思考し、発表する姿が増えてきている。</p> <p>○高学年ではタブレットのムーブノートなどを活用する場を設定することで、ICT機器を活用しネットワーク上内で考えを伝えるようになってきている。低学年から系統立ててICT機器の活用能力を育てていきたいと考える。</p> <p>◆高学年になるにつれて学力にひらきが出てくる傾向にある。授業の中で、学力にひらきが出る瞬間など、今後、研究をすすめるながら学力差が生まれる要因についても探り、その解決策を検討していく。</p> <p>◆具体的な操作物を活用したり、生活体験と結び付けたりすることで児童の経験の蓄積を図り、学力の基礎作りを行っていく。</p> <p>◆児童のタイを引き出す方法やタイの働かせ方を引き続き、研究を行いながら検証する。</p>		B	
○児童の「聴く」必然性を作るために、数学的な見方・考え方が出てきた時にベアトークを行い、ふり返り活動を入れることで聴く構えができている児童が少しずつ増えてきた。 <p>○指導補助員などによる個別支援によって「聴く」ことを意識したり、学習に対する意欲を維持したりすることができ、望ましい学習習慣につながっている児童がいる。</p> <p>◆話しやすい雰囲気を作るために聞き手が反応をしながら聴くことをが学級文化にしていく。</p> <p>◆特性のある児童の対応については、指導補助員、がんばり学びタイム指導員だけでなく、教職員間での共有をさらに深め、学習や授業のルールの定着を図る。</p>		A	
○年間を通した朝学習の継続により、習得内容が少しずつ定着してきている。 <p>○朝学習でタブレットタブレットを用いることにより、学習に苦手意識をもつ児童が学習しようとする姿が少しずつ見られ、復習や繰り返し練習に取り組むようになってきている。</p> <p>◆習った漢字を普段の生活に使う意識が弱く、漢字の定着に課題のある児童がいる。</p> <p>◆来年度は兵庫型教科担任制の拡充を図り、より専門性のある指導を進めるとともに、児童の様子をよりきめ細やかに見取り、個に応じた指導の充実を図れるように努めていく。</p> <p>◆学習内容を関連付けて考える意識が弱い児童がいるため、学習内容と既習事項との関連付けや、児童が関連付けた意見を発表した時に、褒めて価値付けることで児童の意識を強めていく。</p>		A	